

★ まちづくり ニュース



ホームページ

<https://tokiwadai.net/>

284号

★ 2025年12月29日



常盤台の景観を守る会
常盤台まちづくり委員会

事務局 島田晴子 tel・fax 3960 - 3869

— 都心低空飛行問題について —

○ 落下物がベントンを直撃

11月28日午前10時32分ごろ、高速神奈川1号横羽線上、川崎の銅管通あたりで上空からの落下物で東京へ向かっていたベントンの屋根が大破しました。

新ルート離発着関連ではないようですが、何らかの上空からの落下物であることは間違いないようです。国交省は羽田便も含めてわからないとの見解、落下物が発見できていないのでなんとも調査が難しいようです。

ベントン天井破損動画が被害者の撮影でありましたが、ベントンの天井のガラスが粉々になり大きな穴になっていて、人身事故にならなかったのが不思議なくらいでした。

○ 「全国市民景観ネット」解散

国立市の市民運動に始まって全国に建築紛争の礎を築いた全国市民景観ネットが、去年の石原一子代表の逝去もあり、大西副代表らの判断で、20数年の歴史を閉じることになりました。しかし、各地の市民運動を支えてきた存在として、今後も会員は適宜集まって支え合うことを約束して解散しました。

日本では市民運動をとかく色眼鏡で見る傾向があり、健全な市民運動が育っていない後進性があります。国立から始まり全国に広がった景観運動も新たな目標を掲げて発展して欲しいと思います。景観とは環境の一部なのです。

○ 年末押し迫っての発行となりましたので一部では新年の配布になるかもしれません。どなたも健康第一で新年が良い年でありますように！ 「まちづくりニュース」編集部

○ 旧中央図書館跡地活用検討状況の説明会より

12月16日(火)18時30分～19時30分と12月21日(日)14時30分～15時30分の2日、常盤台地域センターレクリエーションホールで行われました。(21日は職員約10名、千代田コンサル3名、参加区民13名)

区の説明は4カ所ある駅前駐輪場のうち2カ所の地主から解約を求められているので、旧図書館の地下に駐輪場を設けたいというもの。

あの場所は元々公園の一部だったが、小学校のプール建設ぐらいからいつの間にか第一種住専地区とされており、旧中央図書館も建坪率違反のまま建てられています。

・図書館機能を

中央図書館が平和公園に移転した結果、図書館機能の空白地帯となった。図書の注文や返却の窓口を置いて欲しいというもので、21日には何人もの人から希望が出ていました。

・駐輪場の是非

反対の理由 1折角小学校との間の暫定駐輪場をやっと撤去したのにまた付近に不法駐輪が増える。2駅前にもっと場所を広げたり借り上げを買い上げに直したり、機械や立て方を工夫したり、もっと努力すべきで安易に図書館跡地を考えないで欲しい。

住民が望んでいるのは知的な活動拠点であり、音楽ホールがだめなら多目的ホールや集会場でも良いから地域の発展に繋がるものを作って欲しいのです。常盤台は相続税も固定資産税も高く、負担感が大きいのに、税金の使い方に住民の希望が通っていないと不満が出ています。

音楽ホール建設の3,000以上の署名陳情、多目的ホール建設のアンケートなどはこのまま無視されるのでしょうか。

尋ね人

Fさんは昭和八年の酉年で、来年は九十三歳になります。当時の同級生、同学年の人と昔話をしたいと探していらつしやいます。旧姓は「橋場」です。Fさんは三歳の時、常盤台のSB通りに面した今の三丁目に越してきて、理髪店の両親の末っ子の男の子として大に育てられました。上板橋小学校では低学年での担任は優しい福田先生で、転勤の時はみんな泣いたそうです。代わって担任になったのは男の上野先生で、時代が時代でもありとても厳しい先生でした。クラスは朝鮮人の子の発音を皆でからかっていじめたとき、上野先生は怒って黒板消しの板の部分で生徒を並べて叩いたそうです。民族差別を許さなかつた教育者としては立派だったかもしれませんが、Fさんには怖い先生としての思い出が残りました。しかし、Fさんの学年を送り出した次ぎに上野先生が担任した人達は、優しく進路指導に熱心な先生として慕っていたというからわからないものです。

町会事務所近くの池田さんの何番目かのお嬢さんとは仲が良く、行ったり来たりしていましたが、焼き餅を焼いた男の子がFさんをはじめ、泣いて帰ったFさんに事情を聞いたお姉さんが仕返しに行つて来たそうです。

Fさんの友人が名乗り出てくださいますように。消息だけでも構いません。

(お店紹介は年末はどこも忙しく、取材申し込みも憚られたので今号はお休みにします。)

「まちづくりニュース」の歴史

この「まちづくりニュース」の第一号が発行されたのは二〇〇三年だったので、もう二二年間も発行し続けていることになりました。

駅前の高層マンション反対運動から始まった市民団体「常盤台の景観を守る会」常盤台まちづくり委員会」のお知らせの役割で発行し始めたものです。板橋区の広報や町会の回覧板などと違って、決定した物のお知らせではなく、自由な町民の意見・情報の共有が目的です。

当時からの特徴としては、配布が会員や協力者のボランティア活動に頼っていることです。現在一七〇〇枚ほどを二十三人で配っています。集合住宅に配布するかしないかは担当の人の判断に任せています。大体アパートに住んでいる人は短期で移動し、この街のことに関心がない人が多いので、アパート・マンションには入れない人が増えていきます。しかし、Nさんのようにアパート住人ですが街に興味があり、会員以上に重要な存在になった人もあるので一概に決めつけられません。何かのご縁で住んでいる以上、この街について知って貰いたいという理由でアパートにも入れる人もいます。

不要な人はお知らせ下されば次回からポストイングしません。ジャーナリストの端くれのつもりで権力の監視的発言をしますので、体制派の人は面白くないかも知れません。しかし、この二十二年間で配布お断りの連絡を頂いたのは五軒ありません。また、悪質な嫌がらせなどもありません。それはこの街の寛容な住民の性質のお陰だと思えます。どうぞ自由に闊達なご意見を投稿してください。

常盤台公園のはなづくり

旧中央図書館をどうするのか、決まっていないうちで周辺の測量が行われました。建物の周囲は当然だと思えますが、はるか離れた北側の地面に穴を開けて調査するのは何故なのか不思議です。

不思議な形のアオギリの実が落ちていなくなり、子供たちに見せられないのが残念です。イチヨウの木もロータリーにはありませんが公園内には一本もありません。

イヌマキは小さな青い実が美味しくて、秋の楽しみのひとつなのですが……

公共の施設には食べる実のなる木は植えないという決まりがあるようですが、何年前かに訪れたイタリーでは街路樹にレモンがたわわに実っていました。

公園入り口近くのカリンの木には見事な実が幾つもなっていますが、誰も取ろうとしません。落ちたところをたまたま通りかかって拾ったなら、匂いが良いのでカリン酒にしたり、暇な人はジャムを作ったりすれば良いと思います。

田舎育ちの人は柿やイチジクを買わなければならぬのが、なかなか納得できないと言っていました。街路樹に果実がなくても良ければ都会の子供たちも楽しみが増えるのですが、そこは争いが起きないようにか、果物屋さんの生活を守るためにか色々あるのでしょうか。

